綴喜都（つゞきのみやこ）〔普賢寺渓（ふげんじたに）の巽にあり、方三町ばかりにして南北山なり。むかし継体（けいてい）天皇の皇居を遷されし所とぞ。今都谷（みやこたに）といふ。山里原和歌に詠ず〕

夫　木　　春雨も花のとだえに袖にもる櫻つゞきの山の下道　　後鳥羽院

続　古　　長月のつゞきの原の秋草にことしはあまりおける露哉　　行家

新後拾　　やがてまたつゞきの里にかき暮て遠くも過ぬ夕立の空　　為世